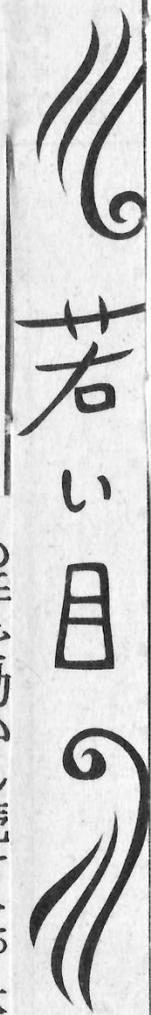


Kちゃん



祖父の笑顔

佐仁小6年

祖父は、龍郷町で1人暮らしをしている。三味線をひきながら島唄をうたうのがとても上手だ。大島紬の泥染めもしている。ぼくはそんな祖父が大好きなのだ。

ぼくは祖父の手伝いがしたくて、連休中におじ

と2人で祖父の家の庭そろうじをした。庭のあちこちに長く伸びた草をかまで切り、床下の不要品を外に運び出した。日差しがとても強かったので、木かげで時々休みながら作業を続けた。

おじも黙々と作業を続けている。暑いけどもう少しがんばろうと、ぼく

も手を動かし続けた。体中から汗が流れ出てきた。

祖父が切った木の枝もどんどん山中へと運んだ。最初は調子よく運んでいたが、うでの力も弱くなったのか、木の重さが強く感じられるようになりとても大変だった。やっと夕方になった。

時間はかかったが、庭がとてもきれいになった。祖父が「心、ありがとう。な。とっても助かったよ。またたのむからな」と笑顔いっぱいほめてくれた。大好きな祖父に認めてもらえたのが、本当にうれしかった。

これからも、できることがあったらどんどん手伝いをしたい。そして、祖父の笑顔をもっともつと見たいと思う。

(奄美市)



令和2年5月24日(日)

みなみにほんしんぶん
南日本新聞の5面にのいました。